

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1176000451
法人名	有限会社 かおる
事業所名	グループホームかおる
所在地	〒350-0271 埼玉県坂戸市上吉田260-24 (電話) 049-280-7050

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月29日

【情報提供票より】(平成20年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 6人, 非常勤 14人, 常勤換算	7.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	26,540円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,330円			

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂戸内科医院、おおば歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「暖かい家庭的な雰囲気を大切に、常に家族や利用者の立場にたったケアを実践したい」との開業医でもある理事長の熱意が形になり、「グループホームかおる」が開設されて4年が経つ。自然環境に恵まれ、日当たりのいいホームには穏やかでのんびりとした時間が流れている。また、当ホームは利用者の支援を最期まで支える取り組みをしており、これまでに数人の利用者を看取ってきた。理事長が医師であり、利用者の病状管理が可能のため、ターミナルの取り組みや医療を必要とする方の生活を可能にし、利用者、家族にとっても大きな安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題については職員会議で話し合い、改善の取り組みをした。改善点2点についてはすでに取り組んでいる。各月ごとに目標を設定し、個々の職員が自己評価するというシステムがとられていて、職員全体の意識の統一につながっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票には職員全体で目を通し、出来ていない項目についてはサービスを見直すための指針と捉え、意欲的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1度定期的に行われるようになった。会議は、行政、職員、家族、地域住民、大学の職員の参加を得て、ホームについての率直な意見も交わされている。外部との関わりが良い刺激になっており、ホームと地域のつながりを深める機会にもなっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>今年から、家族と職員の交流の場として「家族会」を行事の後に開催しており、今後も家族とホームの交流の場を作っていく予定である。家族の意見や思いについては、面会時などに職員から声かけて聞くようにしている。また、毎月利用者の日々の様子をお知らせして、家族の不安の軽減を心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入したり、地域ボランティアの受け入れなどを積極的に行うなど、地域との連携を図っている。それぞれの利用者に応じた、地域との関わりへの支援が可能である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流のもと、利用者の個性を正しく認識しそれに合わせた介護を行う」を理念に掲げ、理念に基づいた目標を定期的に定めて自己評価を行い、質の向上に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的で暖かい雰囲気の中で、家族や利用者の立場に立ってケアしていくことを大切にしながら、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、職員が回覧板を回したり、掃除活動に参加したりしている。また、小中学校の福祉体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行って交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については会議で報告し、改善点について具体的な対策が立てられ実践につなげるなど、評価を活かした取り組みがなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの呼びかけで2か月に1度定期的に行われるようになった。会議には、行政、職員、家族、地域住民、大学の職員の参加がある。ホームについての率直な意見も交わされるなど、外部との関わりが良い刺激になっている。また、ホームと地域のつながりを深める機会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係は良好で、ホームから制度のことなどの相談をするなど、馴染みの関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「かおる新聞」を通じて利用者の日々の暮らしぶりや金銭管理の報告を行っている。また、今年から家族と職員の交流の場として「家族会」を行事の後に開いている。今後も家族とホームとの交流の場を作っていく予定である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が運営推進会議に参加した際や面会時に、家族への声かけを行い、意見の言いやすい雰囲気を作っている。今年から開催している「家族会」でも家族と職員間の交流をもつことができている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職にあたり、ホームの理念を理解してケアにあたる職員を採用するようにしている。入職して間もない職員は、日勤帯で利用者や馴染みの関係になってから夜勤を行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は医療的な研修を中心に年に数回行われ、医療が関わってくる場面の多いホームで働く職員にとっては安心感につながっている。しかし、職員からは認知症の方への対応の仕方やターミナルケアに対する不安がある。		認知症の専門的な研修については、勉強会やホーム内での事例検討も含め、定期的に職員が受けられるような仕組みを作り、全職員が統一したケアを実践できるよう、育成計画を立てることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂戸市のグループホーム部会に参加しており、事例検討や介護保険制度に関する情報交換を行って、サービスの質の向上につながるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時の拒否が想定できるような方には、入居前にホームに何度か来てもらい少しずつ馴染んでもらうようにするなど、一人ひとりの状況に合わせて工夫しながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の仕事を利用者がさりげなく手伝ってくれることも多々あり、感謝の気持ちを伝えている。また、これまでの生活の知恵を利用者から教えてもらうこともあり、お互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。また、1か月に一度会議を行い、利用者一人ひとりについて話し合う機会を設けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意向や思いを把握した上で計画を立てている。また、常に利用者や家族の立場に立ち、計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に見直されている。また、担当者会議をユニットごとに毎月行い、介護方針が現状に即しているか見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院に関しては、家族の付き添いをお願いすることをなるべく避け、通院介助を行っている。また、体調の悪い利用者に対して、随時医師である理事長の往診があり、家族の立場に立った柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望があれば、馴染みのかかりつけ医への受診は可能である。また、週に2回理事長(医師)による健康管理を行っている。緊急時もまずは理事長に報告し対応がなされる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する本人、家族の意向を書面で確認して、医師や職員が連携を取り方針を共有しながら、利用者の終末期を支えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族に不快感を与えたり、利用者の誇りを損ねることのないような対応を心がけている。また、声かけをする際も個々を尊重した対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を決めることなく、利用者のペースに合わせて随時調整している。買い物や散歩なども、希望に沿った支援となるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門の調理師が料理を作っており、利用者から嗜好の聞き取りをして参考にしている。テーブル拭き、お茶入れ、後片付けなどの手伝いや、定期的におかし作りにも利用者に参加してもらい一緒に行っている。今後、利用者による調理への参加や、外食なども検討していく予定である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向を把握して、入浴を楽しめるようにしている。また、いくつかの入浴剤を取り入れて変化を作るなど工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の行事として、誕生会や敬老会などを季節ごとに催している。また、ボランティアによるコーラスや手品、週1回の定期的な音楽療法など利用者の生活に楽しみが持てるように支援している。		ホーム内で楽しめるための支援は充実しているので、もう一步踏み出し、その人らしさを引き出した利用者主体のケアの実現をさらに期待したい。そして、利用者の生活歴や意向から引き出せる、個別的な役割や楽しみを日々のケアに反映させ、「本人が役割を持って生きることへの支援」の具体的な取り組みが期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、買い物や外出の機会を作っている。また、季節によっては車で観光を兼ねてドライブにて出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階、2階のドアは開放し自由に行き来できる仕組みがある。玄関の鍵については、職員体制の状況や周囲の環境などを配慮して施錠している。しかし、玄関先で日向ぼっこをする利用者を見守りするなど、一人ひとりに合わせた対応をし、閉塞感のないように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署による防災訓練を行っている他、自主的な訓練を行っている。災害時の人員の確保が今後の課題である。		自主的な訓練をする中で、利用者の避難誘導に職員の不安が大きいことがわかった。今後は、災害時に地域住民の方にも協力してもらえようような関係づくりや共同の避難訓練の実施などの計画が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量については、チェック表で確認している。また、食事も食べやすい形状にして、食事摂取がきちんと確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周囲に緑が多く日当たりが良いため、どの部屋もたっぷりと陽があたり明るい雰囲気になっている。リビングや広い廊下にはいくつかソファが配置され、利用者が思い思いの場所でくつろいでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス等の使い慣れた馴染みの家具やテーブルセット、仏壇などの持ち込みがあり、各々が安心して居心地良く過ごせる居室になっている。		